

公用車から給電 実証実験

豊田市 災害時電源想定し開始



車にインバーターをつなぎ照明を点灯させる職員＝豊田市役所で

豊田市は二十日、市民が災害時の電源としてハイブリッド車を活用できるようにするため、ハイブリッドの公用車に外部給電設備を後付けして使う実証実験を始めた。開発したのは、豊田市つながる社会実証推進協議会に加盟する大橋産業（大阪府）とアンフェノールジャパン（滋賀県）。それぞれ、車のバッテリーに

接続するインバーターと、間をつなぐケーブルを商品化した。インバーターは縦二十三センチ、横三十センチ、高さ十一センチと小さめ。大橋産業の商品の中でも付属する機能は極力省き、小型で低価格に抑えた。非常時には駐車した車のボンネットを開け、バッテリーにつないで使う。家庭用コンセントの差し込

み口があり、消費電力千五百ワまでの家電製品が使える。ケーブルは、あらかじめ専用金具をバッテリーに取り付けておくと接続が楽になるといふ。インバーターとケーブルは必要時以外は取り外す。

外部給電技術の普及を図る豊田市などの「SAKURAプロジェクト」の一環。インバーターとケーブルで五万円以下を見込む。市は外部給電機能のない公用車二十八台に装着。定期的に講習会を開いて使い方を学び稼働を確認するほか、来年度をめどに購入費補助など市民への普及方法を検討する。

（服部桃）